

4 - 4 駿河湾北部の海底地形・地質構造について

Submarine Topography and Geological Structure, Northward of the Suruga Bay

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

水路部は昭和52年10月～12月にかけて、東海地方の地形及び地殻構造の研究の一環として、駿河湾の海底地形・地質の調査を行なった。調査は東西方向500m、南北方向2kmの標準測深線間隔で実施し、適宜補測を加えた。船位は測距能力100kmの電波距離測定機で、また水深は中深海用及び浅海用音響測深機により、内浦及び清水の験潮所による基本水準面を使って測定した。音波探査は深海部は制御式のエアガン及び高出力のスパーカーを浅海部は低出力のスパーカーによった。その結果等深線間隔10mで縮尺5万分の1の海底地形図と地質構造図を作成した。

海底地形 安倍川沖及び内浦湾には広い大陸棚が見られるが、湾東岸では130～160mにやや平坦な部分がわずかに認められ、湾北岸では埋積が進んだためか痕跡として非常にせまい大陸棚が認められるのみである。湾東岸の大陸斜面はほぼ平滑な急斜面で数条の谷が駿河トラフにそそぐ。戸田沖にはより顕著で大陸棚にまで達する海底谷が存在する。湾西岸側の大陸斜面には多くの海底谷と、海底谷の開口する平坦面が複雑に入り組んでおり、それ以深は急斜面をなして駿河トラフに接している。平底のトラフ底は狭い所で1km、広い所で3kmの幅を持ち北部へ浅くなり北半では5～7度の平滑で広大な斜面となり、湾北岸の海岸へより急斜しながらはい上っている。この斜面上部にはガリー状の深い谷が多数見られる。

海底地質 安倍川沖の大陸棚は薄い堆積物をのせるが、内浦湾の大陸棚はそれに比し厚い。湾東岸の大陸斜面は地形にほぼ平行する堆積物がのり、堆積物下には北西－南東方向及びこれに直交する方向また南北方向の断層が卓越するが、一般的に地層は大きな変動を受けていない。一方湾西岸の大陸斜面には厚い堆積物をのせる平坦面が複雑に分布し、北西－南東方向の断層が卓越する。駿河トラフ底は一般に厚い堆積物に埋められ、その堆積物中には小規模な変動も見られる。トラフ底の深部は清水の沖で東北に方向を変え、沼津市西方の原の方向に向っている。また石花海盆の堆積物中に小規模な変動が見られる。 (中嶋 逞)



第1図 駿河湾北部海底地形図

Fig. 1 Bathymetry, Northward of Suruga Bay.



第2図 駿河湾北部海底地質構造図

Fig. 2 Geological Structure, Northward of Suruga Bay.